

**オムロン株式会社 2019年度 1Q決算
投資家様向け説明会 質疑応答（サマリー）
（2019年7月25日、東京）**

<全社業績、経営・戦略>

Q：事業環境悪化に伴う経費コントロールについて、どのように考えているのか？

A：事業環境の不透明感が増していることから、全社で経費コントロールや在庫管理など、2Q以降もう一段引き締めていく。ただ、ITシステム強化など重点投資はしっかりとやりきりたいと考えているので、アクセルとブレーキ両方を意識して運営する。

Q：1Q実績や今後の市場の見方を基にすると、通期の目標達成に向けて、2Q以降のハードルが高くなっている。業績変動リスク（売上100億円、営業利益50億円）を含めてどのように考えているのか？

A：売上は厳しいが、営業利益は業績変動リスクも踏まえて達成圏内にあると認識している。改めて事業環境悪化による影響を精査し、10月の決算発表でアップデートする。

Q：車載事業の譲渡益はBSから大体の金額を推察できる。用途はFAとヘルスケアの強化という理解でよいのか？

A：譲渡益はまだ確定していない。今後の用途はFAとヘルスケアの成長投資を優先したい。

<制御機器事業 関連>

Q：4月から6月にかけて月別の売上状況は？

A：月を追うごとに状況は悪化している。まだ回復の兆しは見えていない。

Q：1Q実績における注力4業界（自動車、デジタル、食品・日用品、社会インフラ）の状況は？

A：デジタル業界が低調。また自動車業界においても投資様子見の動きが広がっている。食品・日用品は概ね前年並み、社会インフラは中国で堅調。

Q：2Q以降の売上をどう考えればよいか。

A：しばらくは「底」が続くイメージ。一方、自走的な成長を実現する取り組みによるプラス効果もあって、景況感ほどの落ち込みはないと見ている。

Q：i-BELTの進捗は？

A：売上規模はまだまだ小さいが、先進的な大手顧客を中心に共創の取り組みは順調に進んでいる。リカーリングビジネスは今後拡大していきたいと考えており、引き続き投資を実行していく。

<電子部品事業 関連>

Q：1Q実績の営業利益が前年から大幅に減った理由は？

A：需要減速による売上減少、および利益率が高い制御機器事業向け内部売上が減少したため。

<社会システム事業 関連>

Q：海外展開に向けた取り組みは？

A：現時点では、積極的な海外展開は考えていない。

ワンストップでソリューションを提供できる強みを活かして、国内に集中して安定的な成長を目指す。